

# 東北高・小野 慶大進学決定 箱根復帰導



座右の銘である「継続は力なり」を色紙に記した東北高・小野

今夏の高校総体で陸上男子1500mで8位に入賞した東北高(宮城)の小野友生(ゆうき、3年)が来春、慶大に進学することが決まった。箱根駅伝本戦復帰を目指す慶大の新プロジェクトに沿った戦力「補強」の第1弾。古豪復活の期待を背負い、東北高のエースが関東に乗り込む。



## 古豪の強化策 第1弾

「オリシナル」の1校だ。戦前には総合優勝の経験もあるが、1994年の第70回大会を最後に本戦出

場がない。競走部創部100周年を迎えた今年、「慶大箱根駅伝プロジェクト」が発足。東北高OBで、日体大では4年連続箱根を走った保科光作氏(33)が4月にヘッドコーチに就任した。

保科氏は東北高での3年間、同校の渋谷武彦陸上部監督(57)の自宅に下宿していた。「保科は度胸がある選手

だった。伝統校のプレッシャーは大きい。チャレンジにはうってつけだ」と振り返る渋谷監督が「よく考えたレースができるし、性格が長距離向き」と強化策第1弾で推薦したのが小野だ。

小野は今年、1500mで3分46秒97の宮城県高校記録(国内)海外からの留学生を除く)を作り、夏の全国高校総体で8位。慶大にはスポーツ推薦がなく、書類審査と面接のAO入試で総合政策学部

に合格した。今年の箱根駅伝予選会での慶大は、塾記録ながら27位。予選会は選手10人による20キロの合計記録で、最後に予選突破した10位の東京国際大との差は32分と、本戦への道は険しい。しかし、小野は「駒大



箱根駅伝予選会での小野友生。1500mで宮城県高校記録(国内)の3分46秒97をマーク。5000mの自己ベストは14分20秒57。160センチ、49キロ。血液型O。家族は両親、弟、妹。

の夏合宿に参加させてもらい、20キロも走って距離に不安はありません。1年目からみんなで色々と挑戦し、何とか4年生の時に箱根に出場したい」と意欲を燃やす。

小野の座右の銘は「継続は力なり」。毎朝5時に起床し、自宅近くの広瀬川の河川敷を1時間走ってきた。そんな真面目少年の趣味は「乗り鉄」。「東京駅に行くワクワクします」というが、まずは陸の王者のタスキをかけて東海道を走る夢がある。

◆小野 友生(おの・ゆうき)1999年8月18日、山形・寒河江市生まれ。18歳。幼少時、仙台市に転居。長町中3年時、全中陸上800mで7位。東北高2年時に1500mに転向し、3年時の「ホクレンデイスタンスチャレンジ」(7月)

スポーツ報知 から